

1. 調査目的

卒業後の就業実態を把握しつつ、在学中の教育プログラムが就業に活かされているかを調査する。また、社会人経験から在学中に何を学びたかったか等を調査し、今後、大学がどのような学修支援をすべきかを探る。

2. 対象

2019年度の学部卒業生（社会人1年目）

3. 調査方法

Webアンケート（メールにて回答依頼）

4. 調査時期

2021年2月24日～3月19日

5. 調査結果

メール送信件数：1,228名

回答者数：148名

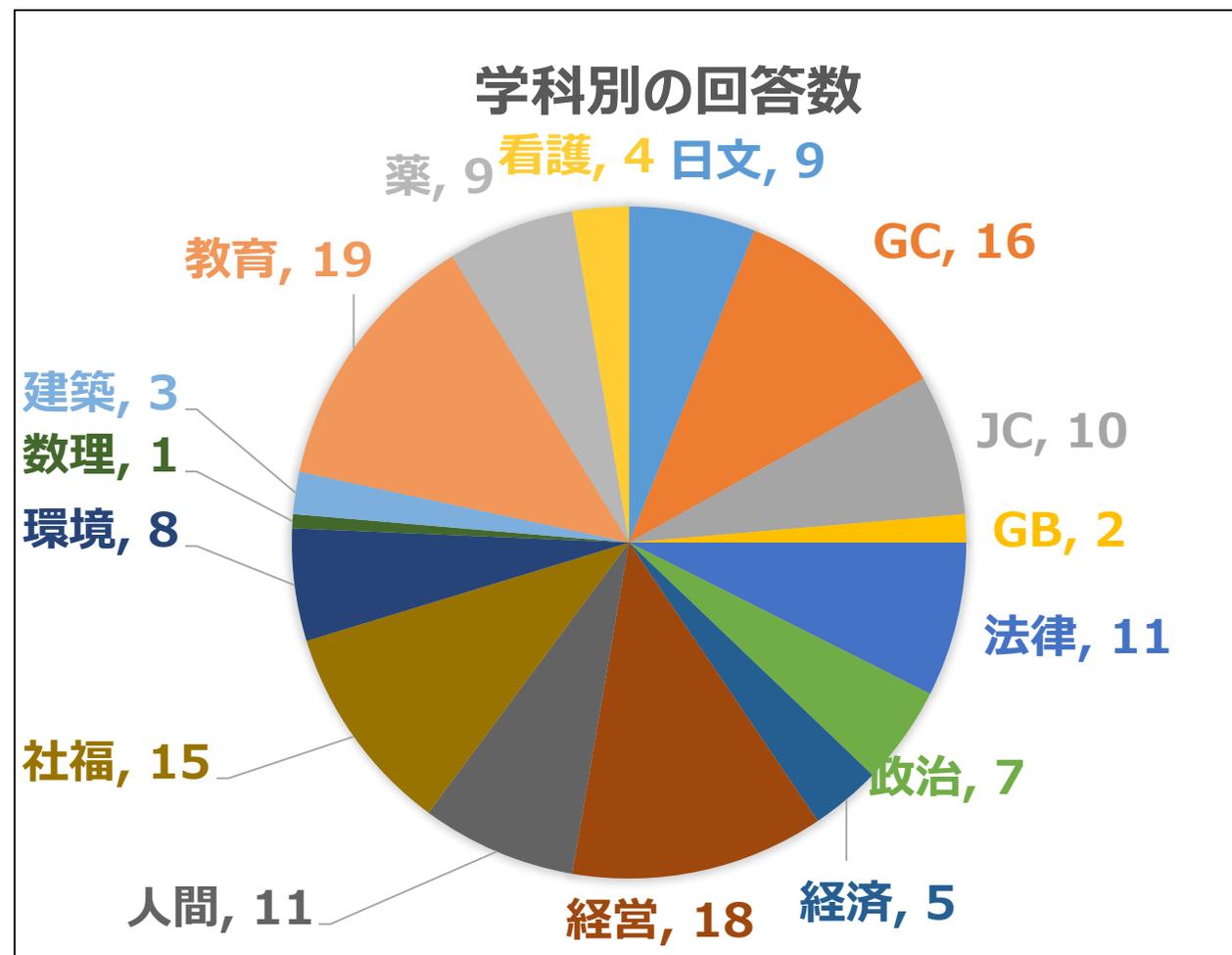
回答率：12.1%

卒業後調査の全体集計結果について

アンケートの**全体集計数は148**であり、学科ごとの数をみると教育学科、経営学科、GC学科の順に多い集計数となった。

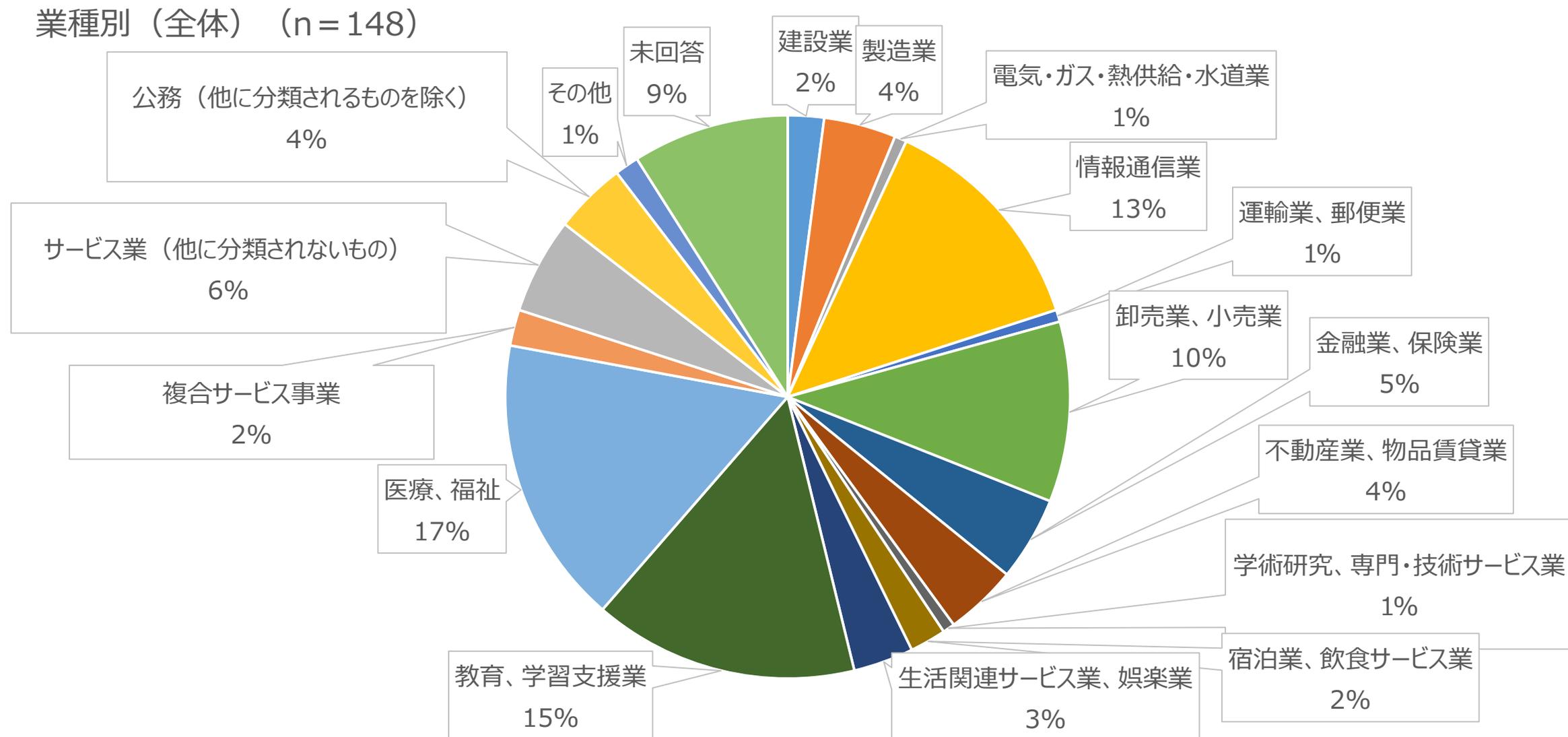
学科	回答数	回答率
日文	9	6.1%
GC	16	10.8%
JC	10	6.8%
GB	2	1.4%
法律	11	7.4%
政治	7	4.7%
経済	5	3.4%
経営	18	12.2%
人間	11	7.4%
社福	15	10.1%
環境	8	5.4%
数理	1	0.7%
建築	3	2.0%
教育	19	12.8%
薬	9	6.1%
看護	4	2.7%
合計	148	100.0%

学科別の回答数について



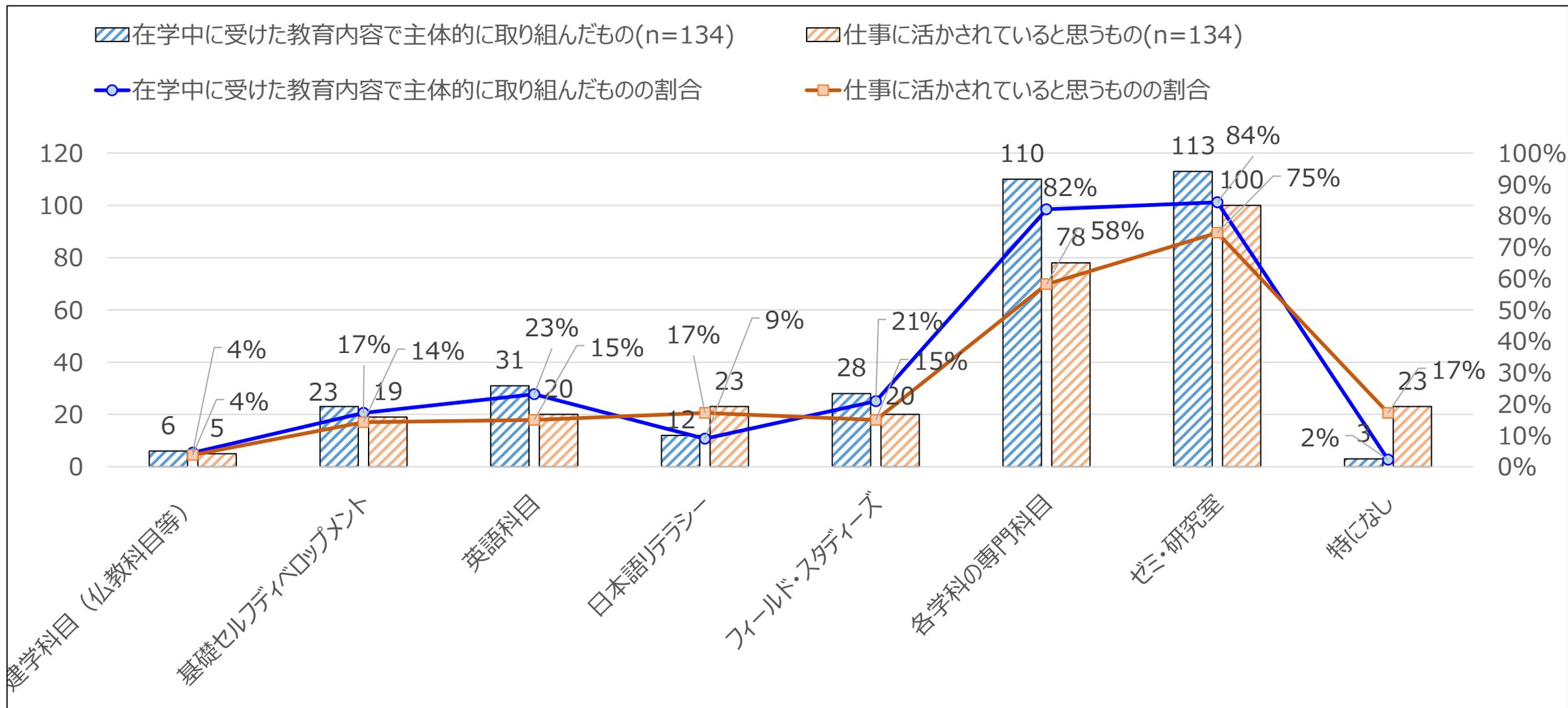
卒業後調査の集計結果 <①-1.就業実態について>

■業種別にみると「医療、福祉」、「教育、学習支援業」、「情報通信業」の順で人数が多い。



卒業後調査の集計結果 <②-1.在学中の教育プログラムの評価について>

- 在学中に受けた教育内容で主体的に取り組んだものと卒業後の仕事で活かされていると思うものについて、調査を行った
(建学、基礎セルフ、英語、日本語リテラシー、フィールド・スタディーズ、各学科の専門科目、ゼミ・研究室、特になし、その他から該当について複数選択可)
- ・ 在学中に受けた教育内容で主体的に取り組んだものと卒業後の仕事で活かされていると思うものは、共に「ゼミ・研究室」、「各学科の専門科目」の順が多い。



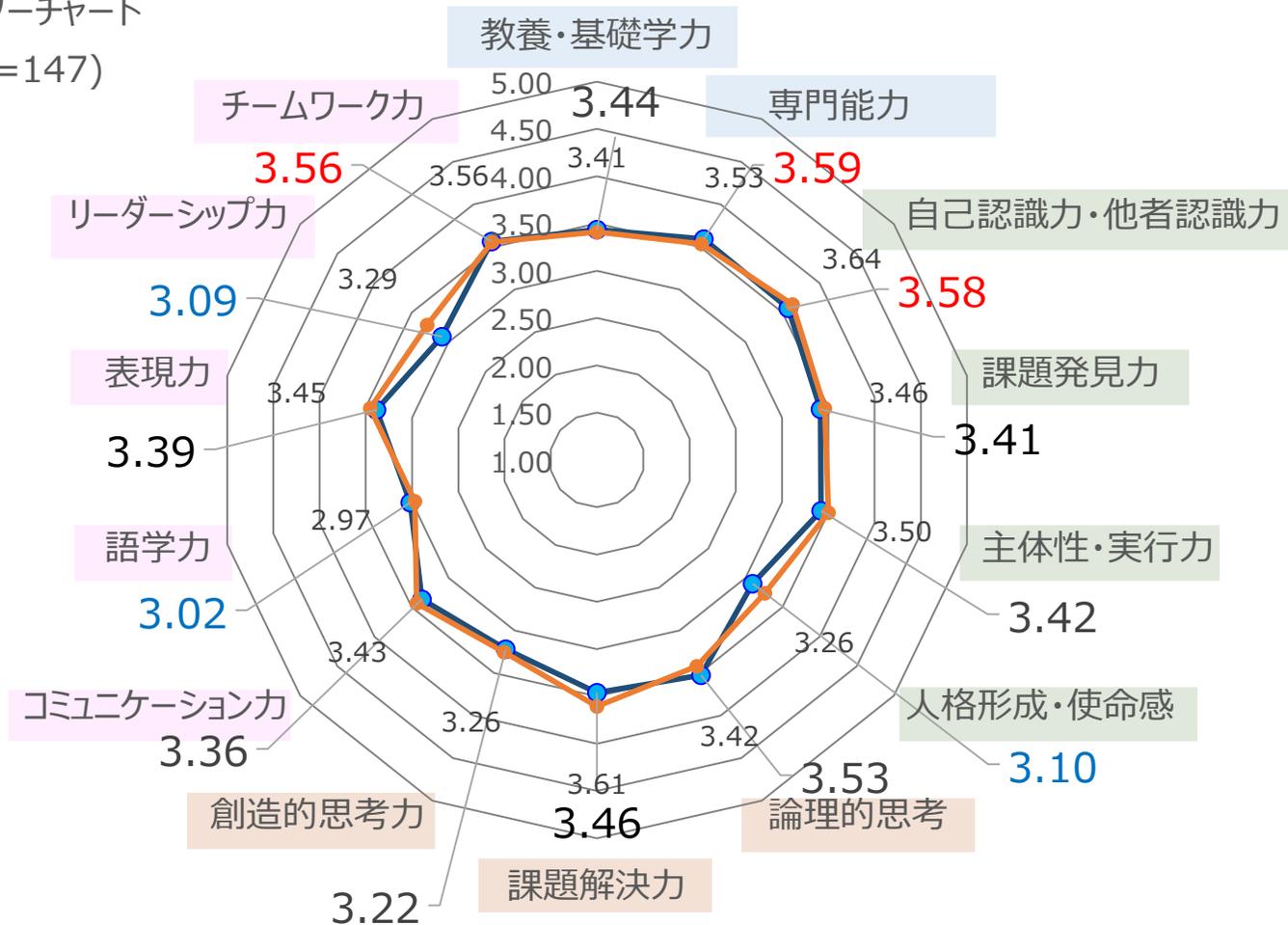
卒業後調査の集計結果 <②-2.在学中の教育プログラムの評価について>

- DPで定義する能力について在学中に身についたかどうか評価を行った (5:とてもそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまり思わない、1:まったく思わない)
- ・評価の上位が「**専門能力**」、「**自己認識力**」、「**チームワーク力**」である。
- ・下位については、「**語学力**」、「**リーダーシップ力**」、「**人格形成・使命感**」である。

DPのレーダーチャート

全体(n=147)

● R2
● R1



<本学で定義されている能力>

DP1 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】	教養 基礎学力
	専門能力
DP2 関心・態度・人格 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】	自己認識力 他者理解力
	課題発見力
	主体性 実行力 ストレスコントロール力
DP3 思考・判断 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】	人格形成 使命感
	情報分析 論理的思考 判断力
	課題解決力 創造的思考力
DP4 実践的スキル・表現 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】	コミュニケーション力 語学力
	表現力
	傾聴力 リーダーシップ チームワーク力